

大井実の BOOKな話

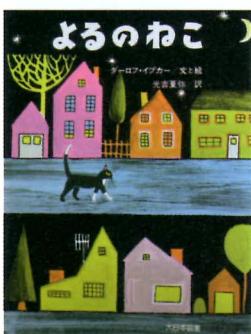
福岡市内で書店『ブックスキューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。

撮影／川上信也

猫好きの読者の方へ。秋の夜長に読みたい絵本と、 秋のドライブで聴きたいジャズ。



『よるのねこ』
ダーロフ・イプカー／大日本
図書／1,365円



『THE CAT』
ジミー・スミス／ユニバー
サルミュージック／4,500
円



代後半にアメリカの作家が描いた本で、なんといつても絵が素晴らしい。どことなくマチス的な雰囲気で、1枚1枚まるで絵画の素敵な作品を見ているようだ。ページをめくるたびに広がる、1匹の猫のかわいらしい冒険の世界。

その完成度の高さは、大人のための絵本と言つてもいいでしょう。今から40年以上も前の作品とは思えないほど、絵もストーリーも色褪せることなく、キュークトで、いつ見ても本当に新鮮。決してメジャーな本ではありませんが、

絵本の世界にも、隠れた名作というのやるであろう、猫好きのための作品を少なからず存在しているもの。誰に紹介しよう。

まずは絵本。秋の夜長にほつと一息つきながら読むのにぴったりですね。とはいえる自身、実はそんなに絵本を読む方ではないのですが…。でも、これだけははずせないという一冊があります。オープン時から店頭でも見られただけではない『よるのねこ』です。60年後半にアメリカの作家が描いた本で、なんとマチス的な雰囲気で、1枚1枚まるで絵画の素敵な作品を見ているようです。ページをめくるたびに広がる、1匹の猫のかわいらしい冒険の世界。その完成度の高さは、大人のための絵本と言つてもいいでしょう。今から40年以上も前の作品とは思えないほど、絵もストーリーも色褪せることなく、キュークトで、いつ見ても本当に新鮮。決してメジャーな本ではありませんが、

さて、アルバムは、そのタイトルもストレートな、ジミー・スミスの『ザ・キャット』。ジャケットはこれまでおしゃれな黒猫のビジュアル。ジミー・スマスといえば、ジャズオルガンの絶対的な存在。オーケストラをバックにしたスリリングな曲は、路地裏を駆け抜ける猫の疾走感をイメージさせる、エネルギーで楽しいアルバムに仕上がっています。ジャズ特有のとつつきにくさがないので、誰にでも聴きやすく、耳ざわりがいいところもおすすめのポイント。たとえて言うなら、「元気いっぱいの人なつこい猫」のような音楽といったイメージでしょうか。ジャズオルガンの代表作として、これから季節なら秋のドライブのBGMにも楽しい、永遠の名作です。